



説教	十字架の言葉は神の力です	…… 河野 美文 …… 1
大信仰問答	CATS・愛⑤ 座談会 第4回	…… 信仰と制度に関する委員会 …… 2
旧約聖書に聴く	「原初史が語る人間と世界」(11)	
	「ノアの子孫」	…… 高松 牧人 …… 4
教会、この地とともに④	旭川教会	
	長い歴史を重ね続ける教会	…… 北村 一幸 …… 5
		…… …… 6
コロナの現場⑪	沖縄伝道所のコロナ禍の近況報告	…… 福地美枝子 …… 7
コロナ禍の中で⑯	コロナ禍の中で信仰に生きる	…… 川越 弘 …… 7
		…… 古南 仰 …… 8
さんびかに生かされて	讃美歌にみちびかれて	…… 山田滋先生 追悼文 …… 8
		…… 三輪 恭嗣 …… 8

十字架の言葉は神の力です

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。 (コリントの信徒への手紙一 1章18～25節)

こうのよしふみ
河野美文

パウロのコリント伝道の結果、コリントにおいてキリストを信じる群れが出来ましたが、教会形成には多くの教師がコリントで教えたので、教会の中に幾つかの分派が出来ました。パウロはそのような事態に対し、パウロにつくというグループにパウロ自身が洗礼を受けなかったことを幸いと言いました。それは彼の使命が洗礼を受けることではなく福音を宣べ伝えることにあり、「キリストの十字架がむなしなものになってしまわぬように」(17節)する為でした。コリントはギリシア文化の影響を色濃く受けていたので、福音の本質が失われる恐れがあったのです。18節の言葉は福音の本質を逆説的に語る言葉です。「十字架の言葉」とは主イエスが罪人の身代わりとして十字架で死なれたとの教えであり、その証しでした。この御言葉を受け入れるかどうかで人の歩む道は二つに分かれてしまうのです。世の原理に従うとき、十字架が愚かに見えるのです。それをパウロは「滅んでいく者にとっては愚かなもの」と、問題が受け手の側にあると指摘するのです。それはもう一方の側が「救われる者」と言われていることから明確です。滅んでいく者には愚かに見えても、現に信じて歩む者にとっては「神の力」であると分かるからです。その理由が神の側にあることを旧約の引用によって確証します。それはイザヤの預言の言葉ですが、自分の知恵を誇るギリシアの知者、律法の知識を頼むユダヤの律法学者、キリストの十字架を嘲笑するこの世の議論家に対する挑戦の言葉として引用されます。

十字架の言葉の愚かさは反対者から見れば明らかでしたが、それは神の失敗でしょうか。そうではないとパウロは断言します。神御自身が「世の知恵を愚かなものにされた」と言うのです。21節が示しているように、この世が自分の知恵によって神を知る事が出来ないのは神の側に落ち度があるからではないのです。実はそのことすら神の摂理の内にあるの

です。「神の知恵」は敢えて「宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと」されたのです。人間には愚かに見えるが、それ故、信仰の決断が必要とされるからです。ユダヤ人は目に見える宗教的な「しるし」によって自分で納得して信じます。ギリシア人は理性を満足させる答えがなければ受け入れません。これは当時の二つの典型的な神信仰のあり方です。その構図は今も同じです。しかし、神の御心はそれでは分かりません。神の御心は聖霊による啓示により把握されるからです。

パウロは、この世の人が恥とする「十字架につけられたキリスト」を「宣べ伝え」ています。徴がないとユダヤ人は躓きます。ユダヤ人以外の異邦人にとっては哲学的、理性的説明がないので愚かに見えます。聖霊の働きを理解出来ない人間性はキリストの十字架の前で、すべての人種的な違いやあらゆる人類の区分をさらけ出します。しかしここに救われた新しい人類の始まりが、十字架を通し、信仰によって生ずるのです。自らの選びではなく神の選びによる召しです。召し出された者の集まりである教会は、新しい人類の始まりと捉えることが出来るのです。「ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には」キリストは神の力であり神の知恵なのです。この「召し」とは、神が永遠の昔に御旨によって選び、栄化すべく予定した者をこの世において福音により信仰を与えることです。従って「召し」は神の選びのこの世における具体化です。ローマの信徒への手紙で、「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということをおぼわすは知っています」(8章28節)と述べている通りです。25節の言葉は今日のまとめの言葉となっています。十字架の愚かさは人間を救う神の知恵の新たな啓示であり、この愚かさにおいてのみ知恵が捉えられるのです。(滝川教会牧師)